5. 用語集

用語	ふりがな	説明
暗渠	あんきょ	地中に埋設された排水路や水路のこと
雨水管理総合計画	うすいかんりそうごうけいかく	下水道による浸水対策を実施する上で、当面・中期・長期にわたる、下水道による浸水対策を実施すべき区域や目標とする整備水準、施設整備の方針等の基本的な事項を定めるものである。
雨水管理方針	うすいかんりほうしん	雨水管理総合計画のうち計画期間、策定主体、下水道計画区域、計画降雨(整備目標)、段階的対策方針等を定めるものである。
AHP 法(階層分析法)	えーえいちぴーほう(かいそうぶんせきほう)	意思決定を支援するための方法論の一つ。この方法は、複雑な意思決定問題を解決するために、問題を階層的に分解し、各階層における要素の重要度を数値化することで、総合的な評価を行う手法である。
オフサイト調整池	おふさいとちょうせいち	主に都市部や工業地帯などで雨水の管理を目的として設置される貯留施設。通常、都市部の地下や郊外の空き地に設置され、雨水を一時的に貯留してから徐々に排水する。
確率降雨	かくりつこうう	特定の確率で発生する降雨量。例えば、10 年確率降雨とは、10 年に一度の確率で発生する降雨量を意味する。このような確率降雨は、洪水対策や排水計画の設計において重要な指標となる。
可搬式ポンプ	かはんしきぽんぷ	移動可能なポンプのことで、主に緊急時や一時的な排水作業に使用される。このポンプは軽量で持ち運びが容易であり、迅速に設置して使用することができる。
既往最大降雨	きおうさいだいこうう	過去に観測された降雨のうち最大の降雨。
緊急輸送路	きんきゅうゆそうろ	災害時や緊急事態において、迅速かつ安全に物資や人員を輸送するために確保された道路のこと。
区間確率 (降雨発生確率)	くかんかくりつ(こううはっせいかくりつ)	特定の期間内に一定の降雨が発生する確率を示す指標であり、降雨の頻度や強度を予測し、洪水対策や排水計画の基礎データとして使用される。
計画雨水量	けいかくうすいりょう	雨水管渠、雨水ポンプ施設、雨水貯留施設の規模決定に用いる雨水流出量のこと。
計画降雨 計画降雨 (レベル 1 降雨)	けいかくこうう けいかくこうう(れべる1こうう)	浸水被害の発生を防止するための下水道施設の整備の目標として気候変動の影響を踏まえて下水道法事業計画に位置づけられる降雨をいう。降雨の確率年の表現として、例えば、5 年に 1 回程度発生する規模の降雨(5 年確率降雨)を 1/5、10 年に 1 回程度発生する規模の降雨(10 年確率降雨)を 1/10 等としている。
減災対策	げんさいたいさく	自然災害が発生した際に被害を最小限に抑えるための対策や手段を意味する。浸水対策としては、内水ハザードマップの策定、水路に設置した簡易水位計・雨量観測機の情報提供などがあります。
降雨強度	こううきょうど	降雨の持続時間と降雨量に基づいて計算され、一定の時間内に降る雨の量を示す指標。通常はミリメートル毎時(mm/hr)で表される。
降雨強度引き伸ばし	こううきょうどひきのばし	洪水解析や浸水想定区域図の作成において重要な手法。具体的には、過去の降雨データを基にして、将来の降雨強度を予測し、それを引き伸ばして解析に利用する。
下水道法	げすいどうほう	下水道の整備、管理、運営に関する基本的な事項を定めている。この法律は、公共の福祉を増進し、生活環境の改善と公衆衛生の向上を図ることを目的としている。 また、「下水」とは、同法より生活廃水(汚水)又は雨水をいう。
豪雨極値	ごううきょくち	特定の地域に集中して短時間に降る降水量が極端に多い現象を指す。このような豪雨は、都市部や山間部などで特に被害が大きくなることがあり、都市部では排水能力を超える雨量が一気に降ることで、道路や建物が浸水することがある。

用語	ふりがな	説明
降雨量変化倍率	こううりょうへんかばいりつ	気候変動やその他の要因によって降雨量がどの程度変化するかを示す指標。ある地域の降雨量が過去の平均と比べてどれだけ増加または減少するかを数値で表す。
市街化区域	しがいかくいき	都市計画法第 7 条に規定される、すでに市街地を形成している区域及び概ね 10 年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域。
時間最大降雨量	じかんさいだいこううりょう	当日の 0 時 01 分から最新時刻までにおける前 1 時間降水量のうちで、最も大きい値。短時間にどの程度の降水があったのかを示す指標の一つとして、防災目的等で使われる。
事業計画	じぎょうけいかく	下水道法に基づき 5～7 年の間で実施する予定の事業内容等を定めた計画である。なお、「下水道法に基づく事業計画の運用について」（平成 27（2015） 年 11 月 19 日国水下事第 80 号）により、事業計画の「その他事業計画を明らかにするために必要な書類」において、浸水対策を含む主要な施策ごとに施設の設置及び機能の維持に関する中長期的な方針を記載することとされている。
資産分布（資産集積度）	しさんぶんぷ（しさんしゅうせきど）	特定の地域やエリアにおける資産の分布状況を示す指標。地域ごとの資産の集中度や分布の偏りを評価するために使用する。
自助	じじょ	住民もしくは施設管理者等が自身の責任において浸水被害を軽減するために行う活動で、止水板や土のうの設置、避難活動等をいう。
止水板	しすいばん	外部から水が浸入するのを防ぐため、玄関等に取り付ける板のこと。
取水施設	しゅすいしせつ	河川や湖沼・貯水池などの地表水や地下水といった水源から水を取り入れ、用水路や導水管などの導水施設に水を供給するための設備。
主要幹線道路	しゅようかんせんどうろ	主として地方生活圏及び主要な都市圏域の骨格を構成するとともに地方生活圏相互を連絡する道路。
照査降雨 （レベル 1’降雨、レベル 2 降雨）	しょうさこうう（れべる 1‘こうう、れべる2こうう）	計画を上回る降雨のうち、減災対策の対象とする降雨をいう。照査降雨としては、安全な避難の確保を図る目標の降雨（レベル 2 降雨（想定最大規模降雨））と計画降雨を上回る降雨時の浸水被害の軽減を図る目標の降雨（レベル 1’降雨）がある。なお、レベル 2 降雨は、「浸水想定（洪水、内水）の作成等のための想定最大外力の設定手法」（平成 27 （2015）年 7 月 国土交通省）を参照されたい。
浸水シミュレーション	しんすいしみゅれーしょん	一定の条件の降雨があると仮定して、検討対象地区の地形等の特性を反映した雨水の流出や氾濫の現象を解析すること。
図上訓練	ずじょうくんれん	地図を用いて災害対策を検討する訓練。
脆弱性	ぜいじゃくせい	起きうる可能性のある災害に対して、被害の受けやすさや対応能力の低さを示す。都市機能の集積状況等から評価を行う。
整備計画	せいびけいかく	特定の地域及び施設において、施設規模や事業費、事業スケジュールについて定めたもの。
想定最大規模降雨	そうていさいだいこうう	特定の地域で発生しうる最大の降雨量を想定したもの。
ソフト対策	そふとたいさく	維持管理・体制、情報収集・提供、施設の効率的・効果的運用、自助対策の支援等による浸水対策をいう。公助・共助・自助による対策がある。
耐用年数	たいようねんすう	設備や施設が使用可能な期間であり、設備や施設が正常に機能し続けると期待される期間のこと。
段階的対策計画	だんかいてきたいさくけいかく	雨水管理方針で策定した方針に基づき、計画降雨に対するハード対策及び、照査降雨に対するハード対策、ソフト対策を位置付けるものである。
貯留施設	ちょりゅうしせつ	雨水や汚水を一時的に貯留し、流量を調整するための施設。これにより、洪水や浸水被害を軽減することができる。
道路冠水	どうろかんすい	大雨や集中豪雨などの際に道路が水で覆われる現象。これにより、交通の支障や車両の浸水被害が発生する。

用語	ふりがな	説明
取込施設	とりこみしせつ	下水道や排水システムにおいて、雨水や汚水を一時的に貯留し、流量を調整するための施設。この施設は、洪水や浸水被害を軽減するために重要な役割を果たす。
内水浸水想定区域図	ないすいしんすいそうていくいきず	大雨などの際に河川や排水施設が対応しきれず、都市部や低地で発生する浸水被害のリスクを予測・表示するための地図。この地図は、過去の浸水実績や地形データ、排水能力などを基にシミュレーションを行い、浸水の深さや範囲を予測する。
内水氾濫	ないすいはんらん	台風や長雨により河川の水位が上昇している場合や、雨水排水施設の能力を超える局所的な大雨が発生した場合等に、道路等に水が溢れている、低地や周りより低い窪地に水が溜まってしまう、川に上手く排水ができずに道路や住宅地等が浸水している等の状態をいう。
内水ハザードマップ	ないすいはざーどまっぷ	大雨が降った際に雨水を河川などに排水できなくなることによって起こる浸水区域や深さ、日頃からの事前準備などの防災に関するさまざまな情報をまとめたマップ。
ハード対策	はーどたいさく	管路施設、ポンプ施設、貯留浸透施設など、施設そのものによる浸水対策をいう。公助・共助・自助による対策がある。
排水区	はいすいく	下水道による雨水計画において設定する、地形条件などを基に河川等へ排水する系統別に分割した区域のこと。
パリ協定	ぱりきょうてい	2015（平成 27）年 12 月にフランスのパリで開催された第 21 回気候変動枠組条約締約国会議（COP21）で採択された国際的な気候変動対策の枠組み。この協定は、地球温暖化を抑制するために、世界各国が協力して温室効果ガスの排出削減を目指すもの。
付加価値施設	ふかかちしせつ	基本的な機能やサービスに加えて、追加の価値を提供する施設。
フラップゲート	ふらっぷげーと	排水施設やポンプ場などで使用される逆止弁の一種。主に水の逆流を防ぐために設置される。通常は閉じた状態にあり、水が一方向に流れるときにのみ開く。これにより、逆流による浸水や設備の損傷を防ぐことができる。
ポンプゲート	ぽんぷげーと	ゲートに水中ポンプを組み込み、ポンプ能力、止水能力等を一体の構造にパッケージ化した施設である。ポンプゲート本体、スクリーン等の付帯施設を既存水路に設置することを基本的な考え方とし、建築物等の設置や広範囲な用地確保を不要とできることが特徴である。
マトリクス	まとりくす	データや情報を整理し、視覚的に表現するためのツール。特にリスク評価等によく使用される。
流域治水	りゅういきちすい	河川の上流から下流までの流域全体を対象に、洪水や水害のリスクを軽減するための総合的な治水対策のこと。このアプローチは、河川の整備だけでなく、雨水の貯留・浸透施設の設置、土地利用規制、利水ダムの事前放流など、さまざまな対策を組み合わせて行う。
流域保全林	りゅういきほぜんりん	流域全体の環境保全や水資源の管理を目的とした森林のこと。これらの森林は、土壌の浸食防止、水質の改善、生物多様性の保護など、多くの環境保全機能を持つ。流域保全林の管理は、地域の持続可能な発展に寄与し、洪水や土砂災害のリスクを軽減する役割も果たす。
流下貯留型化	りゅうかちょりゅうがたか	既存の排水管や貯留管を利用して、雨水や排水を一時的に貯留し、流量を調整する手法。この手法は、洪水や浸水被害を軽減するために用いられる。
流出解析モデル	りゅうしゅつかいせきもでる	降雨時における雨水の流出挙動をシミュレーションするためのモデル。このモデルを使用することで、洪水や浸水のリスクを評価し、適切な排水対策を検討することができる。

※五十音順